

取組・プロジェクトテーマ

現代的教育課題への実技教育による研究事業 2023

所属・氏名 教育学研究科 教授 松永拓己

目的とするSDGsゴール



1. 取組・プロジェクトの概要

現代的教育課題に対し、実技の有用性を駆使した実践研究である。昨年度までの事業を継続発展させ、不登校や被災地支援教育活動やものづくり・木育の教育的取組等に実技系能力を活用する。主として3つの取組を行う。各地区子ども自立支援室等と協力し、大学生の実践的育成研究・教育を一体とした研究事業である。



2. 取組・プロジェクトの目的

SDGs4への教育学部実技系の取組の関連を図り、各知見能力の継続的拡充を行い、熊本の子ども達への教育支援充実をめざす。それにより、ダイバーシティ・インクルージョン実現社会へのさきがけとなる教育実践的取組となす。SDGs12,SDGs15への技術科木育の実践研究の深化を図る。それらを基として新しい教育者を育てる大学教育の内容を実践研究する。

3. 今年度実施した取組・プロジェクト

・本年度中のプロジェクトの取組

研究事業①・・・不登校・災害地支援教育活動への実技系取組（実験系・理科含む）

教育委員会 熊本市17回 山鹿市3回 水俣市2回 益城町3回 不登校オンライン授業9回 計34回

研究事業②・・・ものづくり等参加型事業実施

ものづくりフェア7回 参加2000人（熊本市、八代市、長洲町、天草、人吉2回、山口）2月18日時点

スケッチ大会1回（熊本大学会場） 陶芸/水墨画教室2回（人吉市） 木育講座6回

研究事業③・・・大学生育成プログラム実践

不登校、各地支援各種イベントへの大学生の支援者としての参加。大学授業のカリキュラムへ。

・上記の取組によって生まれた成果（SDGs達成へどのように貢献するのか）

①SDGs4に対する熊本大学独自の総合実技教育スタイル確立

不登校・被災地域と密着連携し必要とされる教育支援継続

②SDGs12,SDGs15へ対するものづくり・木育教育の役割理解

③各教育委員会・企業等との連携強化

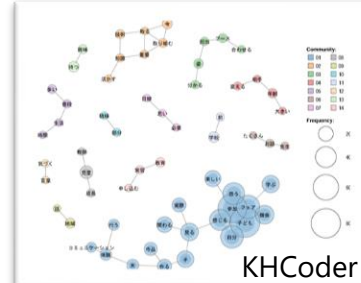
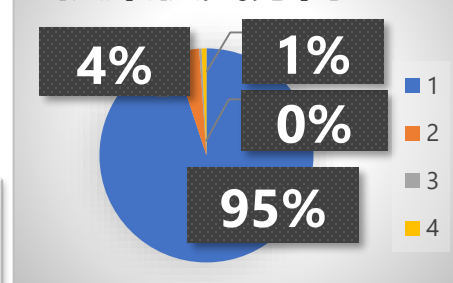
④大学生の実技教育能力育成と実技系教育のフォーム形成

⑤動画の配信による

ものづくり・
木育の啓発



授業後気分向上



次への意欲度 高1～低5



・今後の展望

本事業の継続を行うと同時に、地域と密着活動することで見えてくる新支援の実践を発展的に継続。

今後、新たな取組内容である熊本大学と熊本市教育委員会と不登校生徒を遠隔で結ぶオンライン授業は進展させ、現場と結ぶ不登校教育の研究をより深める。

木育においては技術科を中心に継続し森林・林業系機関との継続的協力研究開発を行う。

教育学部実技系講座の教員資質能力育成を図るため本事業を継続し、SDGs理念を修養した新しい教員達が未来に向けて子供たちに実践し、SDGsのさらなる拡充を展望する。